

## コラム 19

# 一番驚いたのは州保健省自身 ～プロジェクト・スタッフに聞く～

最初のプロジェクト形成のためのダルフルール行きからずっとこのプロジェクトに関与している、現地スタッフのアブドラ・ガデルさんに、プロジェクト期間中の相手の変化を聞いてみた。



母子保健分野も、指導者研修が終わり、研修に必要な資機材も現地に輸送された。西ダルフルール州では、州財務省がいち早く研修実施のための予算を確保して、村落助産師の研修がはじまった。

これに一番驚いたのは、州保健省のスタッフたちだった。私のところに電話してきて、「これまで、20年間州保健省で働いているが、研修と言うのは援助団体が出すものと相場が決まっており、州予算ははなからあきらめていた。だから、こうした助産師の研修のための予算がでるのはある意味信じられない。JICA は一体どんな手を使って州を説得したのか？」と逆に聞かれるような状況だった。

もちろん、脅しも特別なテクニックもない、繰り返し事業の重要性を連邦や州の関係者に説明しただけ。やはり州財務省を巻き込んだことが効果的だったと思う。

ここで、ダルフルールの州保健省のスタッフが言っている州政府負担の予算とは、20名の助産婦研修（7日間）を実施するためのもので、交通費と宿泊費・食費程度や事前の連絡調整（電話が通じないため4輪駆動車を出して直接訪問する必要がある）の経費で、およそ約30万円程度のものである。

以上